

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1現在

機関番号：31304

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21530696

研究課題名（和文） 母子相互作用における乳幼児発話交代形成過程の研究

研究課題名（英文） Turn-taking in mother-infant interaction: A longitudinal study.

研究代表者

庭野 賀津子 (NIWANO KATSUKO)

東北福祉大学・総合福祉学部・准教授

研究者番号：30458202

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、縦断調査により、母子間における発話交替の形成過程を明らかにすることであった。母親による対乳児発話が乳幼児の言語発達に果たす役割は大きい。そこで本研究では、20組の母子を対象として、子が生後6～18カ月の間の相互作用場面を縦断的に記録し、母親発話の機能及び音響的特徴を分析した。その結果、母親が乳幼児の月齢や場面に応じて発話を変化させながら乳幼児の発声を促進し、発話交代の手掛かりを与えていることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

The goal of this study was to examine the development of conversational style in Japanese mother-infant interactions. We investigated speech functions and pitch of mothers' infant-directed speech (IDS) spoken to their infants in two different natural contexts at five infant ages: 6, 9, 12, 15 and 18 months. The results of longitudinal observation of 20 mother-infant dyads suggest that mothers adjust their speech style to their infants' age and contexts, and mothers' speech patterns provide an early clue to turn-taking for infants' communication development.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：母子相互作用、乳幼児、コミュニケーション発達、言語発達、発話交代

1. 研究開始当初の背景

母親は乳児との相互作用において、音響学的あるいは言語学的に特徴のある対乳児音声 (IDS) を用いることが従来の研究により明らかになっている (e. g., Niwano, 2003)。そして、この IDS が乳幼児の言語発達を促進させる機能を持つ可能性についても論じられている (Fernald, 1984; Werker & McLeod, 1989)。また、発話タイミングにおいて母子間の協調が低月齢から観察されることが報告されている (Kajikawa et al. 2004)。しかし、日本語話者における IDS の詳細な研究はほとんどなされておらず、乳児期における発話交代の形成に関連する母親発話の要素についても検討された研究は少ない。

2. 研究の目的

本研究の代表者である庭野及び研究分担者の佐藤、梶川、そして連携研究者の河合は、これまでにさまざまな視点や手法により、母子相互作用や乳幼児の言語発達の研究に携わってきている。それらの先行研究から得られた知見をもとに、乳児の発話交代の形成に寄与すると推測される、母親の IDS に含まれる発話機能やプロソディの特徴が、乳幼児の月齢や母子相互作用の場面の違いによって、どのような変化をするのかを明らかにすることを、本研究の目的とした。

3. 研究の方法

日本語を母語とし、生後 6 カ月の乳児を持つ母親 20 名を対象とした。母親の年齢は平

均 33.9 歳 (SD = 3.2、範囲 29 - 40 歳) であった。乳児の性別の内訳は男女各 10 名であり、いずれの乳児も満期産児であった。

乳児が 6、9、12、15、18 カ月のときの 5 回、大学内のプレールームに母子で入室してもらい、絵本と玩具を用いた遊び場面を設定して、母親が乳児へ自由に話しかけている場場面を記録した。母親の発話の内容を機能別に分類するとともに、音響分析によって音響的特徴を分析し、子の月齢および場面による母親発話の変化を縦断的に調査した。

4. 研究成果

本研究の結果得られた知見のうち、主なものは次のとおりである。なお、それぞれの詳細や他の知見については、学会発表の抄録および学術雑誌への掲載論文を参照されたい。

(1) IDS の発話機能は、乳児の月齢・性別と場面に応じて変化する。

① 月齢が高くなるにつれて、母親発話の叙述的発話、注意喚起発話が減少し、応答的発話や質問的発話が増加する。

② 絵本場面と玩具場面では、同じ月齢であっても出現する発話機能に有意な違いが認められる。

③ 男児に対しては注意喚起発話が、また、女児に対しては応答的発話と質問的発話が多い傾向にある。

(2) IDS の音響的特徴は、乳児の月齢・性別と場面に応じて変化する。

- ① 生後 6 カ月と比較して、生後 9～12 カ月では、発話持続時間が短い、ピッチが高い、発話速度が遅いなど、IDS の音響的特徴が顕著となる。
- ② 生後 15～18 カ月では、①で述べた音響的特徴が次第に減少してくる。
- ③ 生後 9 カ月から母親はより IDS の音響的特徴を持つ発話をするようになり、乳児に発声交代のタイミングの手がかりを与えるようになることが推測される。
- ④ 各音響的要素は乳児の月齢に合わせて同期して変化するのではなく、それぞれの要素ごとに変化の時期が異なる。
- ⑤ 音響的要素のうち、ピッチ変位の乳児の月齢に応じた変化は、子の性別の影響を受ける。

日本語話者における IDS の研究の蓄積は少なく、また、発話機能と発話の音響的特徴の両面から、生後 6～18 カ月齢の乳幼児へ向けた IDS について縦断的かつ詳細に検討した研究はなされてきていなかったため、本研究は我が国の IDS 研究において新たな知見を提供したといえよう。また、子の性別による IDS の比較も、日本ではほとんど着手されていなかったが、本研究により子の性別から受ける影響について確認することができた。今後の研究の展開として、母子相互作用場面における乳児の反応性や発声・発話の発達と、それらを促進する母親の IDS との関連を明らかにしていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 対乳児発話の変化に影響を及ぼす要因：乳児の性別・月齢および遊び場面の違いによる比較. *Studies in Language Sciences : Journal of the Japanese Society for Language Sciences*, 査読有, 掲載決定済.
- ②庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 子の出生順位と月齢が母親の対乳児音声のプロソディに及ぼす影響. *玉川大学脳科学研究所紀要*, 査読有, 5, 2012, 17-25.
- ③庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 母子相互作用における母親発話の特徴：12 カ月児との遊び場面における発話の分析. *東北福祉大学研究紀要*, 査読有, 36, 2012, 251-260.
- ④庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 母親による対乳児音声のプロソディの特徴：6 カ月児及び 9 カ月児へ向けた発話の比較. *玉川大学脳科学研究所紀要*, 査読有, 4, 2011, 19-26.

[学会発表] (計 10 件)

- ①Niwano, K., Kajikawa, S., & Sato, K. Functional analysis of Japanese maternal speech to infants of 6, 9 and 12 months. *The 14th International Congress for the Study of Child Language*, June 30, 2012, Nagoya University.
- ②庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 母親の対乳児音声の音響的特徴：6 カ月および 9 カ月乳児の月齢・性別・ツールによる比較.

日本発達心理学会第 23 回大会, 2012 年 3 月 9 日, 名古屋国際会議場.

③ Niwano, K. Sex-related acoustical differences in a mother's speech toward opposite-sex twin infants. The 12th International Congress for the Study of Child Language. July 20, 2011, Université du Québec à Montréal.

④ Niwano, K., Kajikawa, S., & Sato, K. Maternal verbal style directed to 6- and 9-month-old infants: A comparison between picture book reading and toy play. The 13th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Science, June 26, 2011, Kansai University.

⑤ 庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 6 カ月児へ向けた母親音声の音響的特徴. 日本発達心理学会第 22 回大会, 2011 年 3 月 25 日, 東京学芸大学.

⑥ Niwano, K., Kajikawa, S., & Sato, K. Maternal verbal style in mother-child interaction: A comparison between picture book reading and toy play. The 12th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Science, June 26, 2010, University of Electro-Communications.

⑦ 庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. 母子の遊び場面の会話における母親の発話内容と幼児の応答の発達的变化—18~36 カ月児の横断調査より—. 日本赤ちゃん学会第 10 回学術集会, 2010 年 6 月 12 日, 東京大学.

⑧ 梶川祥世・庭野賀津子・佐藤久美子. 絵本

を使用した遊び場面における母親の対幼児発話の分析. 日本赤ちゃん学会第 10 回学術集会, 2010 年 6 月 12 日, 東京大学.

⑨ 庭野賀津子・梶川祥世・佐藤久美子. コミュニケーション・ツールの違いによる母親の発話への影響—玩具と絵本を使用した母子相互作用場面の比較. 日本発達心理学会第 21 回大会, 2010 年 3 月 26 日, 神戸国際会議場.

⑩ 庭野賀津子. 母子相互作用における IDS の音響的特徴とその役割. 日本発達心理学会第 21 回大会, 2010 年 3 月 26 日, 神戸国際会議場.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

庭野 賀津子 (NIWANO KATSUKO)

東北福祉大学・総合福祉学部・准教授

研究者番号: 30458202

(2) 研究分担者

佐藤 久美子 (SATO KUMIKO)

玉川大学・リベラルアーツ学部・教授

研究者番号: 60154043

梶川 祥世 (KAJIKAWA SACHIYO)

玉川大学・リベラルアーツ学部・准教授

研究者番号: 70384724

(3) 連携研究者

皆川 泰代 (MINAGAWA YASUYO)

慶応義塾大学・社会学研究科・准教授

研究者番号: 90521732